

資本金	前期末現在高	當期増加高	當期減少高	當期末現在高
拂込金				
拂込未済高				

二 當期末現在株式ノ種類(一株ノ金額何圓)

株式種類	株式數	株額	
		拂込	金額
優先株			
普通株			
計			

記名式	
無記名式	
計	

三 當期間記名株式ノ移轉

株式種類	一株ノ拂込高	株買		其ノ他ノ方法ニ依ル移轉株數
		賣	買	
普通株				
優先株				
計				

(一株普通價格ハ賣買ノ實例ニ依リ難キトキハ見込ニ依リ之ヲ記載スヘシ)

四 當期末現在株主及其ノ持株數

當期末現在株主ノ氏名及其ノ持株數別紙ノ如シ

(取締役又ハ監査役タルヘキ資格株數ヲ有セサル株主ニ付テハ其ノ人數及持株總數ヲ記)

載スルモ妨ナシ

第六項 準備金

種類	前期末現在高	當期増加高	當期減少高	當期末現在高
法定準備金	圓		圓	
何準備金				
何積立金				
何基金				
計				圓

第七項 各種信託ノ増減

（信託ノ種類ハ信託引受ノ際信託財産トシテ受人レタル財産ノ種類ニ依リテ區分ヲ爲スモノトス但シ金錢信託ト稱スル信託引受ノ際信託財産トシテ金錢ヲ受人レ元本タル信託財産ヲ受益セシムル場合ニ金錢ヲ以テ給付スヘキモノヲ謂フ以下各項之ニ準ス）

（信託業法施行前ノ引受其ノ他ノ事由ニ因リ信託引受ノ際信託財産トシテ信託業法第四條ニ掲クル財産以外ノモノヲ受入レタルモノアルトキハ各適當科目ヲ設ケテ記載シ且其ノ事由ヲ附記スヘシ以下各項之ニ準ス）

（信託財産ヨリ生シタル利益ハ如何ナル種類ノ財産タルヲ問ハス總テ其ノ信託財産ノ屬スル科目ニ組入ルルモノトス但シ其ノ生シタル利益ニ付新ニ別箇ノ信託關係ヲ設定スヘキ特約アルモノニ在リテハ之ヲ新ナル信託ノ引受トシテ適當ノ科目ヲ以テ整理スヘシ以下各項之ニ準ス）

一 當期間ニ於ケル増減

店名	種類	前期末現在高	當期増加高	當期減少高	當期末現在高
	金錢信託	圓			
	金錢信託以外ノ金錢ノ信託				
	有價證券ノ信託				
	金錢債權ノ信託				圓

本店	動産ノ信託	
	土地及其ノ定著物ノ信託	
	地上權ノ信託	
	土地賃借權ノ信託	
計		

(支店ハ本店ノ次ニ店別ニ列記シ且本支店ヲ通シタルモノヲモ記載スヘシ以下各項之ニ準ス)

二 当期増加高増加事由別

店名	種類	新規引受高	賣買及償還益	評價益	運用益	其ノ他	計
	金錢信託	四	四	四	四	四	四
	金錢信託以外ノ金錢ノ信託						
	有價證券ノ信託						

三 当期減少高減少事由別

本店	金錢債權ノ信託	
	動産ノ信託	
	土地及其ノ定著物ノ信託	
	地上權ノ信託	
	土地賃借權ノ信託	
計		

店名	種類	受益者へ交付高	賣買及償還損	評價損	其ノ他	計
	金錢信託	四	四	四	四	四
	金錢信託以外ノ金錢ノ信託					
	有價證券ノ信託					
	金錢債權ノ信託					

本店	種 類	十萬圓以上		一萬圓以上		五百圓以上		五百圓未滿		計	一口當	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額			
本店	動産ノ信託 土地及其ノ定 着物ノ信託 地上權ノ信託 土地賃借權ノ 信託 計											

第八項 各種信託當期末現在高金額別

本店	種 類	十萬圓以上		一萬圓以上		五百圓以上		五百圓未滿		計	一口當	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額			
本店	金錢信託 金錢信託以外 ノ金錢ノ信託 有價證券ノ信 託 金錢債權ノ信 託 動産ノ信託 計											

本店	種 類	十萬圓以上		一萬圓以上		五百圓以上		五百圓未滿		計	一口當	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額			
本店	土地及其ノ定 着物ノ信託 地上權ノ信託 土地賃借權ノ 信託 計											

(金錢信託ニ付本令施行前ノ引受其ノ他ノ事由ニ因リ一口ノ金額五百圓未滿ノモノアル
トキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ)

第九項 各種信託當期末現在高信託期間別

店名	種 類	十年以上		五年以上		一年以上		一年未滿		期間ノ定 ナキモノ		計	
		口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額		
店名	金錢信託 金錢信託以外 ノ金錢ノ信託 有價證券ノ信 託												

● 本店	
金銭債権ノ信託	
動産ノ信託	
土地及其ノ定着物ノ信託	
地上權ノ信託	
土地賃借權ノ信託	
計	

(運用方法ノ特定セサル金銭信託ニ付本令施行前ノ引受其ノ他ノ事由ニ因リ信託期間一年未滿ノモノ又ハ期間ノ定ナキモノアルトキ當該桁ノ左傍ニ其ノ金額ヲ内書シ且其ノ事由ヲ附記スヘシ)

第十項 各種信託當期末現在高信託財産別

店名	種別	金額
● 國債	金銭信託	圓
	金銭信託以外ノ金	圓
	有價證券ノ信託	圓
	金銭債権ノ信託	圓
	動産ノ信託	圓
	土地及其ノ定着物ノ信託	圓
	地上權ノ信託	圓
	土地賃借權ノ信託	圓
	計	圓

● 本店	
外國債	
地方債	
特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ社債	
其ノ他ノ社債	
株式	
國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ社債ヲ擔保トスル貸付金	
前掲以外ノ有價證券ヲ擔保トスル貸付金	
動産擔保貸付金	
不動産擔保貸付金	
財團抵當貸付金	
保擔擔保貸付金	
保證貸付金	

第十章 信託會社の營業報告

銀行への預け金	
郵便貯金	
貸付有價證券	
不動産	
地上権	
土地賃借権	
現金	
計	

第十一項 金銭信託ニ關スル特別事項

一 當期末現在高ヲ運用方法ノ特定セルモノ、指定アルモノ並特定及指定ナキモノニ區別スレハ左ノ如シ

店名	區	分	口數	金	額
本店					
運用方法ノ特定セルモノ					
運用方法ノ指定アルモノ					
運用方法ノ特定及指定ナキモノ					
計					

二 當期末現在高中運用方法ノ特定セサルモノヲ元本ノ補填又ハ利益ノ補足ヲ爲スヘキコトヲ約シタルモノト然ラサルモノトニ區別スレハ左ノ如シ

店名	口數	金	額	補填内		然ラサルモノ	
				元本ノ補填及利益ノ補足ヲ爲スヘキモノ	口數	金	額
本店							

三 當期間ニ於ケル元本ノ補填額及利益ノ補足額ノ確定セルモノニ付補填又ハ補足ヲ了シタルモノト未タ了セサルモノトニ區別スレハ左ノ如シ

本店 計	元本 利益	店名	補填又ハ補足	
			同 上	内 譯
			當期受入元本 額又ハ契約利 益額	補填額又ハ補 足額確定スヘ キ現
			當期受入元本 額	補填又ハ補 足確定額
			口數	補填又ハ補 足シタルモノ ノ口數
			口數	補填又ハ補 足セザルモノ ノ口數

四 補填又ハ補足ノ要否ヲ確定スヘキ時期ニ達セサルモ當期末現在ニ於テ補填又ハ補足ヲ要スヘキ状態ニ在ルモノ左ノ如シ

本店 計	元本 利益	店名	補填又ハ補足	
			同 上	内 譯
			當期受入元本 額又ハ契約利 益額	補填額又ハ補 足額確定スヘ キ現
			當期受入元本 額	補填又ハ補 足確定額
			口數	補填又ハ補 足シタルモノ ノ口數
			口數	補填又ハ補 足セザルモノ ノ口數

五 合同運用利益歩合

最 高	最 低	普 通
高 年 割 分 厘	低 年 割 分 厘	通 年 割 分 厘

第十二項 動産ノ信託當期間新規引受高種類別

(本項ニハ當期間ニ於テ信託引受ノ際信託財産トシテ受入レタル動産ノ種類ニ依リ區分シテ記載スルヘシ)

本店 計	何 種 類	口 數	量	金 額

第十三項 土地及其ノ定著物ノ信託當期間新規引受高種類別

(本項ニハ當期間ニ於テ信託引受ノ際信託財産トシテ受入レタル不動産ノ種類ニ依リ區分シテ記載スルヘシ)

三 動産擔保貸付金

- (イ) 當期間ニ於ケル増減
(前號イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ
- (ロ) 當期末現在高擔保別

本店	店名	種類	評價	貸付金額
計	何	々		

四 不動産擔保貸付金

- (イ) 當期間ニ於ケル増減
(第二號イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ
- (ロ) 當期末現在高擔保別

本店	店名	種類	評價	貸付金額
計	田	宅地		
	田	畑		
	田	畑		

五 財團抵當貸付金

- (イ) 當期間ニ於ケル増減
(第二號イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ
- (ロ) 當期末現在高擔保別

工場財團	店名	種類	評價	貸付金額

九 貸付有價證券

(イ) 當期間ニ於ケル増減

店名	前期繰越高	當期貸付高	當期回收高	當期引上高	當期引上高	當期末現在高	同上口數
本店	四	四	四	四	四	四	

(ロ) 當期末現在貸付有價證券種類別

(第一號(ロ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

十 動産

(イ) 當期間ニ於ケル増減

店名	前期繰越高	當期增加高	當期減少高	當期引上高	當期末現在高
本店	四	四	四	四	四

(ロ) 當期末現在高内譯

店名	種類	數量	價額
本店	何々		四
計			

十一 不動産

(イ) 當期間ニ於ケル増減

(第十號(イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

(ロ) 當期末現在高内譯

店名	種類	數量	價額
本店	田宅地物		四

外國債	前揭以外ノ社債	前掲以外ノ株式	計	合

第十七項 不動産賣買ノ媒介並金錢及不動産ノ貸借ノ媒介

店名	種別	當期間取扱ノ金額又ハ數量	同上件數
本店	不動産賣買ノ媒介		
	不動産貸借ノ媒介		
	金錢貸借ノ媒介		

第十八項 受入金及支拂基金 各種代理事務ニ關スル受拂金

店名	種別	前期繰越高	當期受入金及支拂基金	當期支拂高	現當在高末	同上件數	保管金	假受金
本店	公債、社債及株式ノ募集ノ取扱							
	公債、社債及株式ノ拂込金ノ受入							
	公債、社債ノ元利息及株式配當金ノ支拂							
	財産ノ取得、管理處分及貸借ノ取扱							
	財産ノ整理及清算ノ取扱							
	債權取立ノ取扱							
	債務履行ノ取扱							
	計							

二 立替金

店名	種別	前期繰越高	當期立替支拂高	當期入金高	當期末現在高
	公債、社債及株式ノ募集ノ取扱				

第二十四項 供託國債

(本項ニハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ニ關スル事項ヲ記載スヘシ)

一 供託國債ノ増減

前期末日後二十日現在供託總額	前期末日後二十一日ヨリ當期末日後二十日迄ノ間於ケル供託増加高	同上期間内ニ於ケル供託減少高	前期末日後二十日現在供託總額
圓	圓	圓	圓

二 當期末日後二十日現在供託國債種類別

種類	券面總額	價		總額
		單價	總價	
圓	圓	圓	圓	圓

第二十五項 所有不動産

(本項ニハ營業用以外ノ不動産ヲ記載スヘシ)

當期間ニ於ケル増減

店名	前期繰越高	當期増加高	當期減少高	當期價額銷却高	當期末現在高
本店	圓	圓	圓	圓	圓

二 當期末現在高内譯

店名	種類	數量	價	額
本店	認可ヲ受ケタル不動産 何、々			圓
計				圓

(信託業法施行前ヨリノ所有其ノ他ノ事由ニ因リ認可ヲ受ケサル不動産ヲ所有スルトキハ認可ヲ受ケタルモノノ次ニ各種類毎ニ一欄ヲ設ケテ之ヲ記載シ且其ノ事由ヲ附記スヘシ)

第二十六項 所有不動産

- (本項ニハ營業用以外ノ不動産ヲ記載スヘシ)
- 一 當期間ニ於ケル増減
- (本號ハ第二十五項第一號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)
- 二 當期末現在高内譯

店名	種類	數量	價額	買入價格
本店	田宅地物			
計				

- (信託業法施行前ヨリノ所有其ノ他ノ事由ニ因リ買入價格ノ總額カ信託業法第十一項第三ノ制限ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ヲ計ノ左傍ニ内書シ其ノ事由ヲ附記スヘシ)
- 第二十七項 公債其ノ他ノ有價證券擔保貸付金

(本項ハ第二十四項第二號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

- 第二十八項 動産擔保貸付金
- 一 當期間ニ於ケル増減
- (本號ハ第十四項第二號(イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ)
- 二 當期末現在高擔保別

店名	種類	評價額	貸付金額
本店	認可ヲ受ケタル動産 、何々		
計			

(信託業法施行前ノ貸付其ノ他ノ事由ニ因リ認可ヲ受ケサル動産ヲ擔保トセルモノアルトキハ認可ヲ受ケタルモノノ次ニ各種類毎ニ一欄ヲ設ケテ之ヲ記載シ且其ノ事由ヲ附記スヘシ)

第二十九項 不動産抵當貸付金

(本項ハ第十四項第四號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第三十項 財團抵當貸付金

(本項ハ第十四項第五號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第三十一項 公共團體及産業組合ニ對スル貸付金

一 當期間ニ於ケル増減

(本號ハ第十四項第二號(イ)ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

二 當期末現在高内譯

店名	區分	口數	金額
本店	公共團體へノ貸付		
	産業組合へノ貸付		
計			圓

第三十二項 銀行へノ預ケ金及郵便貯金

(本項ハ第十四項第八號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第三十三項 銀行引受手形

一 當期間ニ於ケル増減

店名	前期繰越高	當期買入高	當期取立及譲渡高	當期銷却高	當期末現在高	同上枚數
本店	圓	圓	圓	圓	圓	圓

二 當期末現在高引受銀行別

店名	引受銀行名	金額
本店	何、銀行	
計		圓

第三十四項 信託會社引受手形

(本項ハ前項ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第十章 信託會社の營業報告

第三十五項 代理店へ貸

一 當期間ニ於ケル増減

店名	前期繰越高	當期增加高	當期減少高	當期銷却高	當期末現在高
本店	圓	圓	圓	圓	圓

二 當期末現在代理店別

代理店名	金額	擔保種類		
		有價證券	不動產	其他
何々	圓	圓	圓	圓

第三十六項 立替金

(本項ニハ第十八項第二號以外ノ立替金ノ當期間ニ於ケル増減ヲ前項第一號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第三十七項 假受金

(本項ニハ第十八項第一號假受金ノ桁ニ掲クルモノ以外ノ假受金ヲ記載スヘシ)

店名	前期繰越高	當期增加高	當期減少高	當期末現在高
本店	圓	圓	圓	圓

第三十八項 補填補足未拂金

(本項ニハ第十一項第三號中補填又ハ補足ヲ了セサルモノ及同項第四號中補填補足額ノ桁ニ掲クル金額ノ合計額ニ付其ノ當期間ニ於ケル増減ヲ記載スヘシ)

第三十九項 未拂利息

第四十項 未拂配當金

第四十一項 未經過利益

(前四項ハ第三十七項ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第四十二項 營業用土地建物什器

- 一 當期間ニ於ケル増減
(本號ハ第二十五項第一號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)
- 二 當期末現在高内譯

店名	種類	數量	價額
本店	土地	何坪	
	家屋	何棟	
	倉庫	何棟	
	什器	何點	
計			

第四十三項 現金

(本項ハ第十四項第十四號ノ例ニ準シテ記載スヘシ)

第四十四項 損益

店名	當期總益金	當期總損金	當期純損益
本店			
何支店			
計			
前期繰越金			
合計			

備考

- 一 本雜形記載以外ノ勘定アルトキハ其ノ性質最モ近似セルモノノ例ニ準シ各一項ヲ設ケ適當ノ場所ニ之ヲ記載スヘシ
 - 二 本雜形ノ文字ハ之ヲ横書シ數字ハ亞拉比亞數字ヲ用ウルモ妨ナシ
 - 三 前二項ハ後掲雜形ニ付之ヲ準用ス
- 二 第何期末大正 年 月 日現在貸借對照表

資		債	
科目	金額	科目	金額
固有勸定		固有勸定	
拂込未済資本金		資本	
外國債		法定準備金	
外國債		何準備金	
地方債		何積立金	
株式債		何基金	
所有不動產		擔保附保證債務	
所有不動產		無擔保保證債務	
公債其ノ他有價		假受金	
證券擔保貸付金		補填補足未拂金	
不動產擔保貸付金		未拂利息	
不動產抵當貸付金		未拂配當金	
財團抵當貸付金		未經過利益	

公共團體及產業組合ニ對スル貸付金	
銀行ヘノ預ケ金	
郵便貯金	
銀行引受手形	
信託會社引受手形	
代理店ヘ貸	
保證債務見返	
立替金	
營業用土地建物什器	
現金	
計	
信託勸定	
外國債	
外國債	

當期純益金	
前期繰越金	
計	
信託勸定	
金錢信託以外ノ	
金錢信託	
金錢	

地	社	株	公	證	動	不	財	債	保	銀	郵	貸	動	不	地
方	債	式	債	券	產	動	團	權	證	行	便	付	產	動	地
債	債	債	其	擔	擔	擔	抵	擔	貸	へ	貯	有	有	有	債
			他	保	保	保	當	保	付	預	金	價	價	價	權
			有	付	付	付	貸	付	金	々	金	金	金	金	權
			價	金	金	金	付	金							

四

有價證券ノ信託
 金銀債權ノ信託
 動産ノ信託
 土地及其ノ定着物ノ信託
 地上權ノ信託
 土地賃借權ノ信託

四二八

四

土地賃借權	、	、	、	現	金	計	合	計
計								

備考

- 一 本表ハ本支店間ノ勘定ヲ控除シテ調製スヘシ
- 二 本店及支店ノ貸借對照表ハ本支店間ノ勘定ヲモ揭ケ本表ニ準シテ之ヲ調製スヘシ
- 三 第何期自大正 年 月 日 損益計算書

何信託株式會社

利	目	金	益	額	科	目	金	損	失	額
固有勘定					固有勘定					

計	、	何	何	何	不	有	預	貸	株	社	地	外	國	信
	、	評	債	賣	動	價	々	付	式	債	方	國	債	託
	、	價	還	買	產	證	金	金	配	利	債	債	利	勘
	、	益	益	益	收	券	其	利	當	息	利	利	息	定
					益	貸	ノ	息	金		息	息		
					益	付	他							
					益	料	ノ							
					益		利							

四

計	信	、	何	滞	何	營	租	信	信
	託	、	債	貸	賣	務	稅	託	託
	利	、	額	金	買	給	公	報	勘
	益	、	銷	銷	損	費	課	酬	定
			却	却	損	費	課	酬	
			却	却	損	費	課	酬	

四

計	前	、	何	何	預	貸	株	社	地	外	國	手	債	信
	期	、	債	賣	々	付	式	債	方	國	債	債	務	託
	繰	、	還	買	金	金	配	利	債	債	利	利	保	報
	越	、	益	益	其	利	當	息	利	利	息	息	證	酬
	金				ノ	息	金						料	
					利								料	
					息								料	

四

計	當	、	營	旅	給	租	何	滞	保	何	手	補
	期	、	務	給	稅	價	貨	證	求	賣	數	填
	純	、	給	料	額	額	金	償	償	買	料	補
	益	、	費	費	銷	銷	銷	權	權	損	料	足
	金		費	費	却	却	却	銷	銷	損	料	未
			費	費	却	却	却	却	却	損	料	揚
			費	費	却	却	却	却	却	損	料	金
			費	費	却	却	却	却	却	損	料	繰
			費	費	却	却	却	却	却	損	料	入

四

四 第何期自大正 年 月 日 準備金及利益ノ配當ニ關スル書面
何 信 託 株 式 會 社

當期純益金何圓也

之ヲ處分スルコト左ノ如シ

法定準備金	何	圓
何準備金	何	圓
何積立金	何	圓
何基金	何	圓
賞與金	何	圓
配當金 <small>(一株ニ付何圓 年何分ノ割)</small>	何	圓
後期繰越金	何	圓

第十一章 信託會社の監督

信託會社は信任に基きて他人の財産を預るの受託機關であると同時に一種の金融機關であつて、其責任は普通の會社と同様に論ずることは出来ない、従つて是に對する監督も一般會社よりも嚴重であらねばならぬ、商法にては株式會社の監督に付て會社が公の秩序、善良の風俗に違反するが如き行動と、會社が設立登記後六ヶ月を経過するも開業せざる場合に裁判所の命令に依りて解散することになつて居る。信託會社は以上の場合勿論其他裁判所以外に大藏省の監督を受けることが多い、信託業法第十三條には「信託會社ハ每半年業務報告書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ」として信託會社に業務報告の義務を負はしめ同第十七條には「主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得」と規定し信託會社の業務又は財産に關する監督検査を爲すの權能を有して居る。

信託業法第十八條には「主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命シ其他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得」又同第十九條には「信託會社ガ法令、定款、若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタル

業務の報告

業務の検査監督

トキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得」と規定して信託會社の業務の種類、方法の変更又は業務の停止に關する權能及び尙ほ進むで會社機關の交迭又は免許取消の權能を有す、即ち主務官廳たる大藏大臣は(一)信託會社の業務又は財産に關する検査の權能と(二)業務の種類方法の変更、停止、進むでは會社の取締役監査役の改任又は營業の免許取消に關する權能を有するのである、其他罰則として命令、規定等に違反したるときは財産刑として會社の取締役、監査役又は清算人は十圓以上千圓以下の過料無免許にて信託を營みたる者は五千圓以下の罰金に處せらるゝこととなつて居る。

第十二章 信託會社業務發展方法の研究

信託會社の業務は比較的他の金融機關より新しきものにして年數は四五十年、古き米國の如きも漸く百三十餘年に過ぎないのであつて我國の如き信託業法が本年一月一日より實施せらるゝことゝなつたばかりであつて此業務を發達せしむるは多くの年月と同業者の努力を要し絶えず其發展方法を講究せねばならぬ、此見地より(一)株主に對する希望、(二)重役に對する希望、(三)社員に對する希望の二三を附記し同業者の參考とせむ、

一、株主に對する希望、信託會社は資本的信用を高むる必要上及び信用を基とせる關係上會社の株主は左の主旨に同意されべきこと、

(一)新設信託會社は最初の三期間利益金全部を積立金とし、信託會社の積立金は資本金額以上に保留すること、

(二)信用せざる信託會社に對しては絶対に投資せざること

(三)信用して投資したる信託會社の經營に對しては徒らに疑心を以て干涉せず且つ經營者を度々變更せしめざること

二、重役に對する希望

(一)重役として經營の局に當る人は左記の人物たること

(1)人格高き人物にして社會に信用ある人

(2)金融上及び法律規定の知識ある人

(8)信託會社業務に通達せる人

(4)資産状態健實なる人

(5)信託會社の經營に全力を盡し、一人一業主義を基とする人

(二)職務の組織に付きて

(1)重役は少なくとも重役全員の三分の二が會社の實務に従事する様組織すること

(2)重役に對する報酬は出来るだけ多く支給すること

三、社員に對する希望

(一)社員は誠實に事務に従事し會社營業の増進に努力するは勿論なるが現今の會社、銀行執務上に最も缺點とすべきものを二三記せば左の如し

(1)顧客に對する應接、凡て商業は顧客無しに存在するものにあらずして常に顧客の利益と

便宜の爲めに盡す會社は繁榮し之れに反する會社は衰頹す顧客は自己の利益を保護し尊敬と懇切を以て迎ふる處に赴くは自然の勢である。故に客に接する社員は會社には重大なる責任を以て居るので多くは主任者である。顧客が面會又は取引に關し來訪したる時は出来るだけ面會に便利なる方法を探らねばならぬ、舊來の如く取次を頼み長時間待たせたる後尊大に勿體振つたる應接ぶりを爲し顧客をして窮屈と不快の感を與ふことなからしめ受付係取次等には是等につき周到なる注意をなさねばならぬ。

(2)顧客に對する奉仕、此仕事は從來情報部とか、調査部とか又は親切部とかの名稱の下に商工業、經濟事情、信用、諸會社の現状等を顧客より尋ねたる時は好意に報知したるものなるが、信託會社の如く業務の廣い且つ金融に密接なる關係を有し經濟に關する種々なる情況を知るに便なる地位にあるものは商工業者は勿論如何なる顧客に對しても經濟上に關する事は出来るだけの確なる情報を無手数料にて與へ顧客に奉仕し又顧問となるのであつて、此奉仕より業務の取引を増進することとなる。

(3)調査機關の必要、調査機關の必要なるは今更ら説明するの要はなけれども信託會社の如き新業務には直接營業に關する調査機關の設備は特に急務である。

(4) 信託業務の公告、公告の巧妙は事業經營上最も重要なるものであるが殊に創業の信託業務に於ては業務の一般的社會教育が必要である、而して其公告は特に業務と會社の名を讀者の頭腦裡に刻み込ましめ、漸次其の會社の營業の模様なり、内容、主義、方針なり其會社獨特の長所等を舉示説明し、會社の信用を高むると同時に其會社と取引を開らかしむる様なさしむるものにして公告の方法は、一新聞、二週刊物及び定期刊行物、三營業案内、印刷物、四諸プログラム類、五公告郵便物、六交通機關利用公告、七揭示戶外公告、八特種物(曆、日記帳、地圖、吸取紙、簿記棒、文房具等)

公告費の支出高は普通信託會社の純益の八分又は一割の間なるが如し、最善の公告は受益者及び取引顧客に多くの利益を與ふることにて、之れは公告以上の公告なることを經營者は忘るべからざることである。

- (二) 社員に消極的事務勤勉の義務を負はずよりも積極的獎勵法を講ずるを有効とすること
- (1) 社員をして職務に忠なる限り經濟上の不安に對して保護をなすこと
- (2) 社員をして適處に適才を置き職務に満足せしむること
- (3) 社員昇進の道を開くこと

(4) 誠實に事務を執る者を讃むること

(5) 良待遇は良事務員を得るの獎勵法にして信託業務は人物を基とする業務なれば、社員の待遇は一般會社より良待遇なるを要すること

(6) 社員の撰擇、社員の品性行爲は直接信託會社に影響するものにして單に會社執務上のみならず退社後の行爲が會社の信用上に及ぼすこと大なり故に社員の採用には特に周到なる注意を要す

(7) 重役と社員との關係、重役と社員との關係は同一の事業に關與し共に人生の行路を同じくして居るものなれば最も親善ならざるべからず而して之れが爲めには重役は社員を導き社員は誠實に職務に従事すべきものにして此關係は單に會社に於てのみならず各重役各社員の一身、家庭にも及ぶことは事業家として人生を送るに最も興味ある處と謂はざるを得ないのである

要するに日本に於ける信託業は今漸く創生したるのみにして其發達には數十年の年月を要し其間組織に於て經營に於て又は法規の改正等研究すべきもの夥多あるべし、されど信託業務は「信任」を基礎とするものにして此「信任を基とする」と云ふことは、いつれの時代に於ても今後幾年經て

も變らず、信託業務の研究は要するに「信任」の研究たることは不變不朽なることを終りに望みて
此處に再記せむとするのである。

附 錄 參 照 法 令

●信託法 (大正十一年四月 法律第六十二號)

第一條 本法ニ於テ信託ト稱スルハ財産權ノ移轉其ノ他ノ處分ヲ爲シ他人ヲシテ一定ノ目的ニ從ヒ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲サシムルヲ謂フ

第二條 信託ハ遺言ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 登記又ハ登録スヘキ財産權ニ付テハ信託ハ其ノ登記又ハ登録ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

有價證券ニ付テハ信託ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ證券ニ信託財産ナルコトヲ表示シ株券及社債券ニ付テハ尙株主名簿又ハ社債原簿ニ信託財産タル旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條 受託者ハ信託行爲ノ定ムル所ニ從ヒ信託財産ノ管理又ハ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第五條 未成年者、禁治産者、準禁治産者及破産者ハ受託者ト爲ルコトヲ得ス

妻方信託ノ引受ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
民法第十四條第二項及第十五條乃至第二十條ノ規定ハ前項ノ場合

信託法

ニ之ヲ準用ス

第六條 信託ノ引受ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行爲トス

第七條 信託行爲ニ依リ受益者トシテ指定セラレタル者ハ當然信託ノ利益ヲ享受ス但シ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第八條 不特定ノ受益者又ハ未列在セザル受益者アル場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託管理人ヲ選任スルコトヲ得但シ信託行爲ヲ以テ信託管理人ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

信託管理人ハ前項ノ受益者ノ爲自己ノ名ヲ以テ信託ニ關スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

裁判所ハ事情ニ依リ信託財産中ヨリ相當ノ報酬ヲ信託管理人ニ與フルコトヲ得

第九條 受託者ハ共同受益者ノ一人タル場合ヲ除クノ外何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十條 法令ニ依リ或財産權ヲ享有スルコトヲ得サル者ハ受益者トシテ其ノ權利ヲ有スルト同一ノ利益ヲ享受スルコトヲ得ス

第十一條 信託ハ訴訟行爲ヲ爲サシムルコトヲ主タル目的トシテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ信託ヲ爲シタル場合ニ於テハ債權者ハ受託者カ善意ナルトキト雖民法第四百二十四條第一項ニ規定スル取消權ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ受託者カ既ニ受ケタル利益ニ影響ヲ及ホサス但シ受託者ノ債權カ辨濟期ニ到ラザルトキ又ハ受託者カ其ノ利益ヲ受ケタル當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 受託者ハ信託財産ノ占有ニ付委託者ノ占有ノ瑕疵ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ付之ヲ準用ス

第十四條 信託財産ノ管理、處分、滅失、毀損其ノ他ノ事由ニ因リ受託者ノ得タル財産ハ信託財産ニ屬ス

第十五條 信託財産ハ受託者ノ相續財産ニ屬セス

第十六條 信託財産ニ付信託前ノ原因ニ因リテ生シタル權利又ハ信託事務ノ處理ニ付生シタル權利ニ基テ場合ヲ除クノ外信託財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ受託者カ相續其ノ他包括名義ニ因リ信託財産ニ付權利ヲ承繼スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得ザリシ特別ノ事情ニ因リ信託財産ノ管理方法カ受益者ノ利益ニ適セザルニ至リタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者又ハ受託者ハ其ノ變更ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ裁判所ノ定メタル管理方法ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 受託者數人アルトキハ信託財産ハ其ノ合有トス
前項ノ場合ニ於テ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外信託事務ノ處理ハ受託者共同シテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ一人ニ對シテ爲シタル意思表示ハ他ノ受託者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第二十五條 受託者數人アルトキハ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ハ之ヲ連帶トス信託事務ノ處理ニ付負擔スル債務亦同シ

第二十六條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ他人ヲシテ自己ニ代リテ信託事務ヲ處理セシムルコトヲ得

信託法

二

前項ノ規定ニ反シテ爲シタル強制執行又ハ競賣ニ對シテハ委託者其ノ相續人、受益者及受託者ハ異議ヲ主張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第十七條 信託財産ニ屬スル債權ト信託財産ニ屬セザル債務トハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 信託財産カ所有權以外ノ權利ナル場合ニ於テハ受託者カ其ノ目的タル財産ヲ取得スルモ其ノ權利ハ混同ニ因リテ消滅スルコトナシ

第十九條 受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔スル債務ニ付テハ信託財産ノ限度ニ於テノミ其ノ履行ノ責ニ任ス

第二十條 受託者ハ信託ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スルコトヲ要ス

第二十一條 信託財産ニ屬スル金錢ノ管理方法ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 受託者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス信託財産ヲ固有財産ト爲シ又ハ之ニ付權利ヲ取得スルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケ信託財産ヲ固有財産ト爲スハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テハ受託者ハ選任及監督ニ付テノミ其ノ責ニ任ス
信託行爲ニ依リテ他人ヲシテ信託事務ヲ處理セシメタルトキ亦同シ
受託者ニ代リテ信託事務ヲ處理スル者ハ受託者ト同一ノ責任ヲ負フ

第二十七條 受託者カ管理ノ失當ニ因リテ信託財産ニ損失ヲ生セシメタルトキ又ハ信託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ委託者、其ノ相續人、受益者及他ノ受託者ハ其ノ受託者ニ對シ損失ノ填補又ハ信託財産ノ復舊ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 信託財産ハ固有財産及他ノ信託財産ト分別シテ之ヲ管理スルコトヲ要ス但シ信託財産タル金錢ニ付テハ各別ニ其ノ計算ヲ明ニスルヲ以テ足ル

第二十九條 第二十七條ノ規定ハ受託者カ前條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ管理シタル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ信託財産ニ損失ヲ生シタルトキハ受託者ハ分別シテ管理ヲ爲シタル場合ニ於テモ損失ヲ生スヘカリシコトヲ證明スルニ非サレハ不可抗力理由トシテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
第三十條 信託財産ニ付附合、混和又ハ加工アリタル場合ニ於テハ各信託財産及固有財産ハ各別ノ所有者ニ屬スルモノト看做シ民法

三

第二百四十二條乃至第二百四十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 受託者カ受託ノ本旨ニ反シテ信託財産ヲ處分シタルトキハ受益者ハ相手方又ハ轉得者ニ對シ其ノ處分ヲ取消スコトヲ得但シ信託ノ登記若ハ登録アリタルトキ又ハ登記若ハ登録スヘカラサル信託財産ニ付テハ相手方及轉得者ニ於テ其ノ處分カ信託ノ本旨ニ反スルコトヲ知リタルトキ若ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキニ限ル

第三十二條 受益者數人アル場合ニ於テ其ノ一人カ前條ノ規定ニ依リテ爲シタル取消ハ他ノ受益者ノ爲ニ其ノ效力ヲ生ス

第三十三條 第三十一條ニ規定スル取消權ハ受益者又ハ信託管理人カ取消ノ原因アルコトヲ知リタル時ヨリ一月内ニ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス處分ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三十四條 受託者タル法人カ其ノ任務ニ背キタルトキハ之ニ干與シタル理事又ハ之ニ準スヘキ者亦連帶シテ其ノ責ニ任ス

第三十五條 受託者ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外特約アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十六條 受託者ハ信託財産ニ關シテ負擔シタル租稅、公課其ノ他ノ費用又ハ信託事務ヲ處理スル爲自己ニ過失ナクシテ受ケタル

トヲ得

委託者、其ノ相續人及受益者ハ信託事務ノ處理ニ關スル書類ノ閲覧ヲ請求シ且信託事務ノ處理ニ付説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 信託事務ハ營業トシテ信託ノ引受ヲ爲ス場合ヲ除クノ外裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且検査役ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十二條 受託者カ死亡シタルキ又ハ破産、禁治産若ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス受託者タル法人カ解散シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ受託者ノ相續人、其ノ法定代理人、破産管財人、後見人、保佐人又ハ清算人ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄信託財産ヲ保管シ且信託事務ノ引繼ニ必要ナル行爲ヲ爲スコトヲ要ス法人合併ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人亦同シ

第四十三條 受託者ハ信託行爲ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外受益者及委託者ノ承諾アルニ非レハ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス

信託法

四

損害ノ補償ニ付テハ信託財産ヲ賣却シ他ノ權利者ニ先チテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

受託者ハ受益者ニ對シ前項ノ費用又ハ損害ニ付其ノ補償ヲ請求シ又ハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ受益者カ不特定ナルトキ及未ダ存在セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ受益者カ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニハ之ヲ適用セス

第三十七條 前條ノ規定ハ受託者カ受託財産ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合ニ其ノ報酬ニ付之ヲ準用ス受託者カ受益者ヨリ報酬ヲ受クヘキ場合亦同シ

第三十八條 第三十六條又ハ前條ニ規定スル受託者ノ權利ハ受託者カ第二十七條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル損失ノ填補及信託財産復舊ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十九條 受託者ハ帳簿ヲ備ヘ各信託ニ付其ノ事務ノ處理及計算ヲ明ニスルコトヲ要ス

受託者ハ信託引受ノ時及毎年一回一定ノ時期ニ於テ各信託ニ付財産目錄ヲ作ルコトヲ要ス

第四十條 利害關係人ハ何時ニテモ前條ノ書類ノ閲覧ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條 信託行爲ニ依リ特定ノ資格ニ基キ受託者ト爲リタル者其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ任務ハ之ニ因リテ終了ス

第四十五條 第四十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ任務終了シタル者ハ新受託者カ信託事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ル迄仍受託者ノ權利義務ヲ有ス

第四十六條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ受託者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

第四十七條 受託者カ其ノ任務ニ背キタルトキ其ノ他重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ委託者其ノ相續人又ハ受益者ノ請求ニ因リ受託者ヲ解任スルコトヲ得

第四十八條 第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依リ受託者其ノ任務ヲ辭シ又ハ解任セラレタルトキハ裁判所ハ信託財産ノ管理人ヲ選任シ其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 受託者ノ任務終了ノ場合ニ於テハ利害關係人ハ新受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ遺言ニ依リ受託者トシテ指定セラレタル者カ信託ノ引受ヲ爲サス又ハ之ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ信託行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

五

第八條第三項ノ規定ハ受託者ニ付テ準用ス

第五十條 受託者ノ更迭アリタルトキハ信託財産ハ前受託者ノ任務終了ノ時ニ於テ新受託者ニ讓渡サレタルモノト看做ス

受託者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ任務終了シタルトキハ信託財産ハ當然他ノ受託者ニ歸ス

第五十一條 第二十七條又ハ第二十九條ニ規定スル權利ハ新受託者亦之ヲ行フコトヲ得

第五十二條 受託者ノ更迭アリタルトキハ新受託者ハ前受託者カ信託行爲ニ因リ受益者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ承繼ス

前項ノ規定ハ第五十條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

信託事務ノ處理ニ付生シタル債權ハ信託財産ノ限度ニ於テ新受託者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

第五十三條 信託財産ニ對スル強制執行又ハ競賣手續ハ新受託者ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ得

第五十四條 前受託者ハ第三十六條第一項ニ規定スル費用若ハ損害ノ補償ヲ受クル權利又ハ第三十七條ニ規定スル報酬ヲ受クル權利ニ基キ新受託者ニ對シ信託財産ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ之ヲ競賣スルコトヲ得

託行爲ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第六十條 信託ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第六十一條 第五十七條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ信託ノ解除セラレタルトキハ信託財産ハ受益者ニ歸屬ス

第六十二條 信託終了ノ場合ニ於テ信託行爲ニ定メタル信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ其ノ信託財産ハ委託者又ハ其ノ相續人ニ歸屬ス

第六十三條 信託終了ノ場合ニ於テ信託財産カ其ノ歸屬權利者ニ移轉スル迄ハ仍信託ハ存續スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ歸屬權利者ヲ受益者ト看做ス

第六十四條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ信託ノ終了ニ因リ信託財産カ受益者其ノ他ノ者ニ歸屬シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 信託終了ノ場合ニ於テハ受託者ハ信託事務ノ最終ノ計算ヲ爲シ受益者ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第五十五條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其ノ他公益ヲ目的トスル信託ハ之ヲ公益信託トシ其ノ監督ニ付テハ後六條ノ規定ヲ適用ス

信託法

前受託者ハ前項ノ權利ヲ行フ爲信託財産ヲ留置スルコトヲ得

第五十五條 受託者更迭ノ場合ニ於テハ信託事務ノ計算ヲ爲シ受益者又ハ信託管理人ノ立會ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲スコトヲ要ス

受益者又ハ信託管理人カ前項ノ計算ヲ承認シタルトキハ前受託者ノ其ノ受益者ニ對スル引繼ニ關スル責任ハ之ニ因リテ解除セラレタルモノト看做ス但シ不正ノ行爲アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 信託行爲ヲ以テ定メタル事由發生シタルトキ又ハ信託ノ目的ヲ達シ若ハ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ信託ハ之ニ因リテ終了ス

第五十七條 委託者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テハ委託者又ハ其ノ相續人ハ何時ニテモ信託ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ民法第六百五十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外受益者カ信託利益ノ全部ヲ享受スル場合ニ於テ信託財産ヲ以テスルニ非サレハ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキ其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキハ裁判所ハ受益者又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ信託ノ解除ヲ命スルコトヲ得

第五十九條 第五十七條及前條ノ規定ニ拘ラス信託ノ解除ニ關シ信

第六十七條 公益信託ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第六十八條 公益信託ノ引受ニ付テハ受託者ハ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第六十九條 主務官廳ハ何時ニテモ公益信託事務ノ處理ニ付検査ヲ爲シ且財産ノ供託其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

受託者ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ信託事務及財産ノ狀況ヲ公告スルコトヲ要ス

第七十條 公益信託ニ付信託行爲ノ當時豫見スルコトヲ得サリシ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ主務官廳ハ信託ノ本旨ニ反セサル限り信託ノ條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 公益信託ノ受託者ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ任務ヲ辭スルコトヲ得

七十二條 公益信託ニ付テハ第八條第一項、第三項、第二十二條第一項但書及第四十七條乃至第四十九條ニ規定スル裁判所ノ權限ハ主務官廳ニ屬ス但シ第四十七條及第四十九條ニ規定スル權限ニ付テハ職權ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得

第七十三條 公益信託終了ノ場合ニ於テ信託財産ノ歸屬權利者ナキトキハ主務官廳ハ其ノ信託ノ本旨ニ從ヒ類似ノ目的ノ爲ニ信託ヲ

繼續セシムルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年十二月勅令第五
一二號ヲ以テ大正十二年一月一日ヨリ施行）

●信 託 業 法（大正十一年四月
法律第六十五號）

第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコト
ヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法
ヲ記載シタル書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二條 信託業ハ資本金百萬圓以上ノ株式会社ニ非サレハ之ヲ營ム
コトヲ得ス

第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ

信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘ
キ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム
者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 信託會社ハ左ニ掲ケル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲ス
コトヲ得ス

八

- 一 金錢
- 二 有價證券
- 三 金錢債權
- 四 動産
- 五 土地及其ノ定著物
- 六 地上權及土地ノ賃借權

第五條 信託會社ハ左ニ掲ケル業務ニ限リ之ヲ併セ營ムコトヲ得

- 一 保險預リ
- 二 債務ノ保證
- 三 不動産賣買ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ賃借ノ媒介
- 四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金
若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
- 五 左ノ事項ニ關スル代理事務
 - イ 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借
 - ロ 財産ノ整理又ハ清算
 - ハ 債權ノ取立
 - ニ 債務ノ履行

主務大臣ハ債務ノ保證ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設ケルコト

ヲ得

第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信
託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトア
ルヘキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ資本金ノ十分ノ一
以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ
超ユルコトヲ要セス

第八條 受益者ハ信託會社カ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ
付他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セサル金
錢信託ニ限り元本ニ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ
利益ヲ得サリシ場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコ
トヲ得

第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用
セス

信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所
ノ相場アルモノナルトキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル
債務ヲ履行スル爲必要ナル場合ニ限リ信託行爲ノ定ムル所ニ依リ

信 託 業 法

之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得

第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用
スルコトヲ得ス

- 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
 - 二 公債其ノ他前條ニ掲ケル有價證券ヲ買トスル貸付
 - 三 動産ノ買入又ハ動産ヲ擔保トスル貸付
 - 四 不動産ノ買入
 - 五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付
 - 六 公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付
 - 七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
 - 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入
- 前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認
可ヲ受クヘシ
- 第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金
及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ
準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
- 第十三條 信託會社ハ毎半年業務報告書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出

九

スヘシ

貸借対照表ハ毎半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ

第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一 定款ヲ變更セムトスルトキ
- 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキ
- 三 代理店ヲ設置セムトスルトキ

第十六條 合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲモ承繼ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ準用ス

第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命ジ其

ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 信託會社カ法令定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基ク命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ
- 三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ
- 四 第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 本法ノ命令又ハ本條ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
- 六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ
- 七 信託會社ハ信託法第三十九條ニ規定スル事務ノ處理若ハ計算

ヲ爲サス又ハ財産目錄ヲ作ラサルトキ

八 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依リ閱覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第二十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本條施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本條施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本條施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノニハ本條施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本條施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本條ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本條ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

信託業法

●信託業法施行細則 (大正十一年十二月一日) (大藏省令第五十七號)

第一條 信託業ヲ營ムトスル株式會社ハ免許申請書ニ總取締役署名シ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

- 一 定款
- 二 業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面
- 三 免許申請前日ニ於ケル日計表
- 四 預ケ先ノ預金證明書
- 五 非訟事件手續法第八十七條第二項第二號乃至第七號ニ記載シタル書類
- 六 株式會社ニシテ其ノ目的ヲ變更シテ信託業ヲ營ムトスルモノハ前項第四號及第五號ノ書類ニ代ヘ左ノ書類ヲ添附スヘシ
 - 一 會社登記簿ノ謄本
 - 二 免許申請ノ際現ニ存スル取引ノ性質ヲ知ルニ足ル書面
 - 三 最終ノ財産目錄及貸借對照表
 - 四 最終ノ損益計算及利益處分ニ關スル書面
 - 五 株主ノ氏名又ハ商號及持株數ヲ記載シタル書面
 - 六 代理店ヲ有スル者ニ在リテハ代理店ノ所在地、代理店主ノ氏

名又ハ商號及住所ヲ記載シタル書面並代理店契約書

第二條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ

營△信託業務ノ種類ヲ記載スヘシ

甲 金錢信託ニ付テハ其ノ運用方法ニ依ル區分

一 運用方法ノ特定セル金錢信託

二 運用方法ノ指定アル金錢信託

三 運用方法ノ特定及指定ナキ金錢信託

乙 金錢信託以外ノ信託ニ付テハ信託引受ノ際受入レル財産ノ種

類ニ依ル區分

一 金錢信託以外ノ金錢ノ信託

二 有價證券ノ信託

三 金錢債權ノ信託

四 動産ノ信託

五 土地及其ノ定着物ノ信託

六 地上權ノ信託

七 土地ノ質借權ノ信託

業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ左ノ區分ニ依リ其ノ併セ營

△業務ノ種類ヲ記載スヘシ

一 保護預り

二 債務ノ保證

三 不動産買入ノ媒介

四 不動産貸借ノ媒介

五 金錢貸借ノ媒介

六 公債社債若ハ株式ノ募集又ハ其ノ拂込金受入ノ取扱

七 公債社債若ハ株式ノ元利金又ハ配當金ノ支拂ノ取扱

八 財産ノ取得、管理、處分又ハ貸借ノ代理事務

九 財産ノ整理又ハ清算ノ代理事務

十 債權取立ノ代理事務

十一 債務履行ノ代理事務

第三條 業務ノ種類及方法ヲ記載スル書面ニハ其ノ營△信託業務ノ

方法ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 信託引受ノ際受入レル動産ノ種類

二 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ノ種類

三 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ニ關スル事項

四 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲ス場合

ニ於ケル財産ノ種類及價格算定ノ方法

權利ヲ有スルコトヲ定メタルトキハ之ニ關スル事項

四 信託ノ目的

五 信託契約締結ノ際ニ於ケル信託財産ノ種類、數量及價格

六 信託法第三條ノ規定ニ依ル登記、登錄又ハ信託財産ナルコト

ノ表示及記載ニ關スル事項

七 契約ノ期間

八 信託事務ノ處理ニ依リ取得スヘキ財産ヲ特定又ハ指定シタル

トキハ其ノ種類

九 受益者ニ交付スヘキ信託財産ノ種類其ノ交付ノ方法及時期

十 信託財産タル金錢ト他ノ信託財産タル金錢トノ合同運用ニ關

スル事項

十一 信託業法第九條ノ規定ニ依ル補填又ハ補足ノ契約ヲ爲ス場

合ニ於テハ補填補足ノ割合其ノ他之ニ關スル事項

十二 信託業法第十條ノ規定ニ依リ信託財産ヲ固有財産ト爲シ得

ヘキコトヲ定ムルトキハ其ノ財産ノ種類、價格算定ノ方法

十三 信託會社カ受クヘキ報酬ニ付其ノ額又ハ其ノ計算方法、支

拂義務者並支拂ノ方法及時期

十四 信託財産ニ關スル租稅、公課並雜費其ノ他ノ費用ニ關スル

信託業法

五 信託會社カ受クヘキ報酬額ノ計算方法

六 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關

スル事項

七 委託者又ハ受益者ニ對スル特別利益ノ提供ニ關スル事項

八 其ノ他重要ナル事項

第四條 信託會社カ營業ノ免許ヲ得タル日ヨリ六月内ニ業務ヲ開始

セサルトキハ其ノ免許ハ効力ヲ失フ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ

因リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 信託會社カ業務ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ大藏大臣

ニ届出ツヘシ

第六條 信託契約ヲ爲スニハ書面ヲ用ウヘシ

第七條 信託契約書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託者及信託會社ノ代表

者之ニ署名スヘシ

一 委託者、受益者及信託會社ノ氏名又ハ商號

二 不特定ノ受益者又ハ未タ存在セサル受益者アルトキハ其ノ範

圍、資格其ノ他受益者トナルヘキ者ヲ知ルコトヲ得ヘキ事項

三 受益權ノ發生ニ付受益者カ信託ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示

スルヲ要件トスルコト又ハ委託者カ受益者ヲ指定若ハ變更スル

事項

- 十五 金錢信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル信託ノ解除ニ關スル事項
- 十六 信託終了ノ場合ニ於ケル最終計算及其ノ報告ニ關スル事項
- 十七 左ノ事項ニ付信託契約ニ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル事項
 - イ 信託法第八條第一項但書ノ規定ニ依ル信託管理人ノ指定
 - ロ 受託者數人アル場合ニ於ケル信託事務ノ處理
 - ハ 受託者ノ辭任
 - ニ 任務終了ノ場合ニ於ケル新受託者ノ選任
 - ホ 信託終了ノ事由
 - ヘ 金錢信託以外ノ信託ニ付信託法第五十七條ノ規定ニ依ル解除
- ト 信託法第五十八條ノ規定ニ依ル信託ノ解除
- 十八 證書作成ノ年月日
- 十九 其ノ他重要ナル事項

第八條 信託會社ハ五百圓未満ノ金錢信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス
 第九條 信託會社ハ信託期間一年ヲ下ル金錢信託ノ引受ヲ爲スコト

ヲ得ス但シ運用方法ノ特定セルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第十條 信託會社ハ其ノ保證ノ責ニ任スヘキ限度ノ確定セサル債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得ス
 第十一條 信託會社ノ保證スル債務ノ總額ハ其ノ資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス
 一人ノ債務者ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十二條 主タル債務者カ會社ナルトキハ信託會社カ其ノ會社ノ爲ニ保證スル債務ノ總額ハ該會社ノ資本金又ハ財產ヲ目的トスル出資ノ拂込金及準備金ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十三條 主タル債務者カ會社ニ非サルトキハ信託會社ハ物上擔保ヲ徵スルニ非サレハ保證ヲ爲スコトヲ得ス但シ主タル債務者カ公共團體又ハ產業組合ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第十四條 信託會社カ國債地方債別特ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ社債若ハ株式、不動産又ハ法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ擔保トシテ保證シタル債務額ハ第十一條及第十二條ノ適用ニ付信託會社ノ保證スル債務ノ總額ヨリ之ヲ除算ス
 第十五條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託額カ資本金

ノ二十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ五十萬圓)ニ達スル迄ハ每事業年度末日ヨリ二十日以内ニ資本金ノ二分ノ一以上(資本金千萬元以上ナルトキハ五萬圓以上)ノ金額ニ相當スル供託ヲ爲スヘシ

信託會社ハ事業年度末日ニ於ケル信託財產ノ價格カ資本金ノ額ニ達シタルトキハ該事業年度末日ヨリ二十日以内ニ前項ノ規定ニ拘ラス資本金ノ十分ノ一以上(資本金千萬元以上ナルトキハ百萬圓以上)ノ金額ニ相當スル供託ヲ爲スコトヲ得ス
 第十六條 前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ハ其ノ供託價格カ資本金ノ十分ノ一(資本金千萬元以上ナルトキハ百萬圓)ヲ超過スル部分ニ非サレハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス但シ供託換ノ目的ヲ以テ供託シタル國債ノ供託價格以下ノ部分ニ付テハ此限ニ在ラス
 第十七條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ハ本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ
 第十八條 信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託國債ノ信託價格ハ每事業年度末日ノ時價ヲ超ユルコトヲ得ス
 第十九條 信託會社ハ信託業法第七條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタルトキハ供託受領證ノ寫ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

信託業法

第二十條 信託會社、信託業法第七條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ノ下戻ヲ受ケムトスルトキハ大正十一年司法省令第二號供託物取扱規則又ハ大正十一年司法省令第四號ノ手續ニ依ルノ外地方長官カ其ノ下戻ヲ承認シタルコトヲ證スルニ足ル書面ヲ供託局供託局出張所又ハ供託事務ヲ取扱フ銀行ニ提出スヘシ
 信託會社ハ前項ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由並國債ノ種類、記號、番號、枚數、券面額及供託價格ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ
 地方長官ハ前項ノ申請ニ對シ承認ヲ爲シタルトキハ申請書ノ寫ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ
 第二十一條 信託會社カ信託業法第九條ノ規定ニ依リ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ補足スヘキ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ利益歩合ハ大藏大臣ノ定ムル歩合ヲ超ユルコトヲ得ス
 第二十二條 信託會社カ信託業法第十一條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ大藏大臣ニ提出スヘシ
 第二十三條 信託會社ノ事業年度ハ毎年六月ヨリ十一月迄及十二月

第二十四條 信託業法第十三條第一項ノ業務報告書ハ附屬簿形ニ準シテ調製シ事業年度經過後二月内ニ大藏大臣ニ提出スヘシ但シ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケテ之カ提出ヲ延期スルコトヲ得

第二十五條 信託會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ商法第七十八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲シタル後信託會社ノ總取締役ノ署名シタル認可申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

一 株主總會ノ決議録及社員ノ同意アリタル事ヲ知ルニ足ル書面
二 合併ニ關スル契約書
三 合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ノ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面

四 商法第七十八條第一項ノ規定ニ依リ作成シタル貸借對照表
五 商法第七十八條第二項ノ規定ニ依ル公告及催告並商法第二百二十條ノ二ノ規定ニ依ル通知ヲ爲シタルコトヲ知ルニ足ル書面

第二十六條 信託會社カ定款ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及株主總會ノ決議録ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ資本減少ニ關シ定款ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ尙前條第四條

及第五號ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第二十七條 信託會社カ業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十八條 信託會社カ代理店ヲ設置セムトスルトキハ認可申請書ニ理由書及代理店契約書ヲ添附シテ之ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第二十九條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ運滞ナク其ノ事由ヲ具シテ之ヲ大藏大臣ニ届出ツヘシ

- 一 取締役又ハ監査役ノ就任又ハ退任アリタルトキ
- 二 本店、支店又ハ代理店ヲ移轉シタルトキ
- 三 代理店契約ノ變更、消滅又ハ更新アルタルトキ
- 四 訴訟事件ノ被告トナリタルトキ
- 五 支拂停止ヲ爲シタルトキ
- 六 業務ヲ廢止シ又ハ解散シタルトキ
- 七 和議開始ノ申立ヲ爲シ、和議認可ノ決定カ確定シ又ハ和議カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 八 破産ノ宣告ヲ受ケ、破産宣告ニ對シ抗告ヲ爲シ又ハ抗告ニ對シ裁判所ノ決定ヲ受ケタルトキ
- 九 強制和議認可ノ決定カ確定シ又ハ強制和議カ其ノ效力ヲ失ヒタ

第三十條 信託業法又ハ本令ノ規定ニ依リ大藏大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第三十一條 本令ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得

第三十二條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役又ハ監査役ヲ百圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第八條及第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第五條及第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届出ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

附 則

本令ハ信託業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條第二項ノ規定ハ信託業法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム株式會社カ營業ノ免許ヲ受ケムトスル場合ニ付之ヲ準用ス

信託業法附則第二項ノ適用ヲ受ケヘキ株式會社カ提出スル免許申請書ニハ第一條第二項ニ依リ添附スヘキ書類ノ外本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營メルコトヲ知ルニ足ル書面ヲ添附スヘシ
本令施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ信託業法ニ依リ免許ヲ受ケ

非訟事件手續法

タルモノハ本令施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本令ノ規定ニ適合セサルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得
(難形畧ス)

● 非訟事件手續法 (大正十一年四月 法律第六十三號改正)

目錄第二編第三章ヲ第四章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左如ク加フ

第三章 信託ニ關スル事件

第三條 ニ左ノ但書ヲ加フ
但其裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ適當ト認ムル他ノ管轄裁判所ニ事件ヲ移送スルコトヲ得

第四十條中「此裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス」ヲ削ル
第四十條ノ二 管理人ノ選任又ハ改任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十九條中「第四十條」ノ下ニ「第四十條ヲ第四ノ二」ヲ加フ

第二編中第三章トシ以下順次繰下ケ第二章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第三章 信託ニ關スル事件

第七十一條ノ二 信託法第八條第一項第三項、第二十二條第一項但

書、第二十三條、第四十一條、第四十六條乃至第四十八條及五十八條ニ定メタル事件ハ受託者ノ住所地ノ區裁判所、同法第四十九條第一項第四項ニ定メタル事件ハ前受託者ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トシ受託者又ハ前受託者數人アル場合ニ於テハ其一人ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

信託法第四十九條第二項ニ定メタル事件ハ遺言者ノ最後ノ住所地ノ區裁判所ノ管轄トス

第七十一條ノ三 裁判所ハ信託事務ノ監督ニ付キ必要ト認ムルトキハ財産目録及ヒ信託事務ニ關スル帳簿並ニ書類ノ提出ヲ命シ且信託事務ノ處理ニ付キ受託者其ノ他ノ關係人ヲ審訊スルコトヲ得

前項ノ命令ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
第七十一條ノ四 裁判所ハ信託法第八條第一項又ハ同法第四十八條ノ規定ニ依リテ選任シタル信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ヲ改任スルコトヲ得

第七十一條ノ五 第三十九條、第四十條第二項及ヒ第四十條ノ二ノ規定ハ信託管理人又ハ信託財産ノ管理人ノ選任又ハ改任ニ付キ之ヲ準用ス

第四十三條ノ規定ハ裁判所カ選任シタル信託管理人又ハ信託財産

ノ管理人ニ之ヲ準用ス

第七十一條ノ六 第二百二十八條ノ規定ハ信託法第四十一條第二項ノ規定ニ依リテ裁判所カ選任シタル權查役ニ付キ之ヲ準用ス
第八十二條中「第四十條」ノ下ニ「第四十條ノ二」ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 不動産登記法 (大正十一年四月) (法律第六十四號改正)

第四百條ノ二 不動産ノ信託ノ登記ニ付テハ受託者ヲ登記權利者トシ委託者ヲ登記義務者トス

第四百條ノ三 信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ信託ノ登記ハ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ規定ハ信託法第二十七條ノ規定ニ基ク信託財産ノ復舊ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百條ノ四 受益者又ハ委託者ハ受託者ニ代位シテ信託ノ登記ヲ申請スルコトヲ得
第四百六條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル代位登記ノ申請ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ申請書ニ代位原因ヲ證スル書面ノ外登記ノ

目的タル不動産カ信託財産タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第四百條ノ五 信託ノ登記ノ申請ハ信託ニ因ル不動産ノ所有權ノ移轉ノ登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第十四條ノ規定ニ依リテ信託財産ニ屬スル不動産ノ取得ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス

第四百條ノ六 受託者更迭ノ場合ニ於テ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其更迭ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託法第五十條第二項ノ場合ニ於テ爲スヘキ變更ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四百條ノ七 受託者ノ任務カ死亡、破産、禁治産、準禁治産又ハ裁判所若ハ主務官廳ノ解任命令ニ因リテ終了シタルトキハ前條ノ登記ハ新受託者又ハ他ノ受託者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得受託者タル法人ノ任務カ解散ニ因リテ終了シタルトキ亦同シ

第四百條ノ八 信託ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

- 一 委託者、受託者、受益者及ヒ信託管理人ノ氏名、住所法人ニ在リテハ其名稱及ヒ事務所

不動産登記法

二 信託ノ目的

三 信託財産ノ管理方法

四 信託終了ノ事由

五 其他信託ノ條項

前項ノ書面ニハ申請人署名、捺印スルコトヲ要ス

第四百條ノ九 前記ノ規定ニ依リ申請書ニ添附シタル書面ハ之ヲ信託原簿トス

信託原簿ハ之ヲ登簿ノ一部ト看做シ其記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第四百條ノ十 裁判所カ信託管理人ヲ選任シ又ハ解任シタルトキハ選任ナク信託原簿ノ記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス主務官廳

カ信託管理人ヲ選任シルトキ亦同シ

第四百條ノ十一 前法ノ規定ハ裁判所又ハ主務官廳カ受託者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百條ノ十二 裁判所カ信託財産ノ管理方法ヲ變更シタルトキハ選任ナク信託原簿記載ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ主務官廳カ信託ノ條項ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四百條ノ十三 前三條ノ場合ヲ除ク外第四百條ノ八第一項ニ掲グ

ル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ受託者ハ遲滞ナク其變更ヲ證スル書面ヲ添ヘテ信託原簿ノ記載ヲ申請スルコトヲ要ス但第四百四條ノ六又ハ第四百四條ノ七ノ場合ニ於テ登記ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ信託原簿ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス

第四百四條ノ十四 第四百四條ノ十一ノ規定ニ依リテ信託原簿ノ記載ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記簿ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第四百四條ノ十五 第四百四條ノ二乃至前條ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

第四百二十七條ノ二 第四百三條及七第百三條ノ二ノ規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用ニ因ル權利移轉ノ登記ニ、第四百四條ノ二乃至第四百四條ノ十五ノ規定ハ不動産ニ關スル所有權以外ノ權利ノ信託ノ登記ニ之ヲ準用ス

第四百四十三條ノ二 信託財産タル不動産ニ關スル權利ノ移轉ニ因リ其權利カ信託財産ニ屬セサルニ至リタル場合ニ於テ爲スヘキ信託登記抹消ノ申請ハ移轉登記ノ申請ト同一ノ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ信託終了ニ因リ信託財産タル不動産ニ關スル權利カ

移轉シタル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ規定ハ擔保附社債信託法ニ依ル登記ニ之ヲ適用セス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●所得稅法 (大正十一年四月 法律第四十五號改正)

第三條ノ二 信託財産ニ付生スル所得ニ關シテハ其ノ所得ヲ信託ノ利益トシテ享受スヘキ受益者カ信託財産ヲ有スルモノト看做シテ所得稅ヲ賦課ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ受託者ヲ以テ受益者ト看做ス此ノ場合ニ於テハ信託者カ本法其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル者ナルトキト雖尙所得稅ヲ賦課ス

受託者法人ナル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ個人ノ所得ト看做ス

第十六條ノ二 第三條ノ二第二項第三項ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課スヘキ所得ハ之ヲ受託者固有ノ所得ト區分シテ所得金額ヲ定ム二以上ノ信託アル場合ニ於テハ尙各信託毎ニ之ヲ定ム

第十五條第二項、第十六條、第二十條第二項及第二十三條第二項ノ規定ハ前項ノ所得ニ付之ヲ適用セス

第五十六條中「前項ノ支拂調書」ヲ「第一項又ハ前項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

信託ノ受託者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各信託ニ計算書ヲ政府ニ提出スヘシ

第五十七條中「前條第一項ノ支拂調書」ヲ「前條第一項又ハ第二項ノ支拂調書又ハ計算書」ニ改ム

第七十五條中「第五十六條第一項」ヲ「第五十六條第一項又ハ第二項」ニ「支拂調書」ヲ「支拂調書又ハ計算書」ニ、第五十六條第二項」ヲ「第五十六條第三項」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●登 録 稅 法 (大正十一年四月 法律第四十六號改正)

第二條第一項第四號中「第三號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者

所得稅法 登錄稅法

ノ所有權ノ取得

不動産價格 千分ノ六十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ歸屬權利者ナルトキハ不動産價格ノ千分ノ三十

同條第一項第十三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十三ノ二 信託ノ登記 不動産價格 千分ノ五

第三條第一項第四號中「第三號」ヲ「第三號ノ二」ニ改メ同項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三ノ二 信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權ノ取得

船舶價格 千分ノ五十

同條第一項第七號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七ノ二 信託登記 船舶價格 千分ノ三

第三條ノ二第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一

第三條ノ三第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一ノ二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一

第三條ノ四第一號ノ次ノ左ノ一號ヲ加フ

- 一ノ二 信託ノ登記 債權金額、千分ノ一
- 第十條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 第十一條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 第十二條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 第十二條ノ二第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 四ノ二 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 第十三條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 一ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓
- 第十四條第一項第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金十圓
- 第十五條第一項第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 六ノ二 信託ノ登録 每一件 金五圓
- 第十五條ノ二第一項第九號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
- 九ノ二 信託ノ登録 每一件 金二圓

第十九條ニ左ノ各號ヲ加フ

- 六 登記又ハ登録スヘキ信託財産ニシテ委託者カ信託行為ニ依リ信託利益ノ全部ヲ享受スヘキモノヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産取得ノ登記又ハ登録
- 七 信託ニ付受益者又ハ歸屬權利者ノ財産取得ノ登記又ハ登録
- 八 信託ノ受託者更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産取得ノ登記又ハ登録
- 前項第六號ノ規定ハ當該信託財産ニ付受益者變更ノ登記又ハ登録ヲ受ケル場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ信託財産ハ其ノ變更ノ登記又ハ登録ノ時ニ於テ受託者ニ移轉シタルモノト看做シ登録稅ヲ課ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 印 紙 稅 法 (大正十一年四月)

第四條中「一使用貸借、貸借、履借、寄託、定期金ニ關スル契約證書、印紙稅、三錢」ノ次ニ左ノ如ク加フ
一信託行為ニ關スル證書 印紙稅 三錢

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 相 續 稅 法 (大正十一年四月)

第五條中「存續期間ノ不確定ナル權利」ノ下ニ「信託ノ利益ヲ受ケヘキ權利」ヲ加フ
第二十三條ノ二 信託ニ付委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受ケヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ其ノ時ニ於テ信託ノ利益ヲ受ケヘキ權利ヲ贈與又ハ遺贈シタルモノト看做シ第三條、第二十條及前條ノ規定ヲ適用ス但シ不動産又ハ船舶ノ歸屬スヘキ權利ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 日本興業銀行法 (大正十一年四月)

第九條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
第十 國債證券地方債證券、債券、若ハ株券ノ募集其ノ拂込金ノ
印紙稅法、相續稅法、日本興業銀行法、臺灣銀行法、北海道拓殖銀行法

受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱
附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 臺 灣 銀 行 法 (大正十一年四月)

第五條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ「有價證券ヲ買入ルルコトヲ得」ヲ「有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ改メ同條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
第十 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 北海道拓殖銀行法 (大正十一年四月)

第七條中「信託ノ業務」ヲ「擔保附社債ニ關スル信託事業」ニ改メ同第一項ニ左ノ一號ヲ加フ
九 國債證券地方債證券社債券若ハ株券ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

第九條中「有價證券ヲ買入ルルコトヲ得」ヲ「有價證券ノ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得」ニ改ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

● 所得税法施行規則中改正 (大正十一年勅令第五百十三號)

第二十二條ノ二 所得税法第五十六條第二項ノ規定ニ依リ信託ノ計算書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

- 一 信託會社ニ在リテハ毎事業年度終了後二十日限
- 二 信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ毎年四月末日限
- 三 前條ノ計算書ニハ各信託ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 委託者及受益者ノ住所及氏名
- 二 信託行爲ノ時及信託會社ニ在リテハ各事業年度末、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ三月末日ニ於ケル信託財産ノ種類及現在額前信託會社ニ在リテハ各事業年度中、信託會社ニ非サル受託者ニ在リテハ前年四月一日ヨリ其ノ三月末日ニ至ル期間中

二四

ニ於ケル信託財産ノ異動及信託ニ關スル收入支出

三 前各號ニ掲ケルモノノ外信託行爲ノ内容ニ關スル事項

第二十三條 第二十條、第二十二條又ハ第二十二條ノ二ニ規定スル調書又ハ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ左ノ金額ヲ交付ス

- 一 第二十條又ハ第二十二條ニ規定スル調書ニ付テハ記載事項一件一人毎ニ五厘
- 二 第二十二條ノ二ニ規定スル計算書ニ付テハ一信託毎ニ三錢

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ調書又ハ計算書提出後三十日以内ニ請求書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

附 則

本令ハ大正十一年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

● 鑛業登錄令中改正 (大正十一年勅令第五百十四號)

明治四十三年勅令第六十四條中改正 (同第五百十五號) 漁業登錄令中改正 (同第五百十六號) 特許登錄令中改正 (同第五百十七號) 大正十年勅令第四百六十五號中改正 (同第五百十八號)

以上略ス

● 有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金銭ノ管理ニ關スル件 (勅令第五百十九號)

第一條 信託法第三條第二項ノ規定ニ依リ信託財産ナルコトノ表示ハ委託者又ハ受託者ノ請求ニ因リ公債、株式又ハ社債ニ付テハ發行ノ者又ハ公證人、其ノ他ノ有價證券ニ付テハ公證人之ヲ爲ス但シ國債ニ付テシ日本銀行ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 公證人前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ信託表示簿ニ證券ノ種類及番號並委託者及受託者ノ氏名ヲ記載シ證券ニハ信託財産ナルコト及登簿番號ヲ記載シテ日附アル印章ヲ捺捺シ尙其ノ印章ヲ以テ信託表示簿ト證券トニ割印ヲ爲スヘシ

信託表示簿ニハ豫メ登錄番號ヲ印刷シ請求順ヲ以テ前項ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 發行者又ハ日本銀行第一條ノ請求ヲ受ケタルトキ證券ニハ有價證券ノ信託財産表示及信託財産ニ屬スル金銭ノ管理ニ關スル件

信託財産ナルコトヲ記載シ其ノ年月日ヲ附記シ記名捺印スヘシ

第四條 第一條、第二條第一項及前條ノ規定ハ受託者カ信託財産ナルコトノ表示ノ抹消ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ニ規定スル表示ノ抹消ハ受益者モ亦之ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

第五條 信託財産ニ屬スル金銭ノ運用ハ信託行爲ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外左ノ方法ニ依ルコトヲ要ス

- 一 公債及特別ノ法令ニ依リテ設立シタル會社ノ社債ノ應募、引受又ハ買入
 - 二 前號ノ有價證券ヲ擔保トスル貸付
 - 三 郵便貯金
 - 四 貯蓄銀行及特別ノ法令ニ依リテ設立シタル銀行ヘノ預金
 - 五 前號ノ銀行以外ノ銀行ヘノ預金
- 前項第五號ノ方法ニ依ル運用ハ當該方法ニ依ルノ已ムコトヲ得サル事由アリト認メラルル場合ニ限ル

附 則

本令ハ信託法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二五

●船舶登記規則中改正(大正十一年勅令第五百二十號)

國債規則中改正(大正十一年大藏省令第六十二號)以上略ス

●日本銀行國債事務取扱規程中改正(大正十一年十二月二十九日大藏省令第六十三號)

第二十五條ノ二 日本銀行ハ其ノ本店ニ國債證券信託表示簿ヲ置キ請求ノ順ニ從ヒ登簿年月日及登簿番號ヲ附シ信託ノ目的タル無記名國債證券ノ名稱、額面、金額ノ種類、記號、番號、信託ノ委託者及受託者ノ住所氏名ヲ登記シ又抹消ノ請求アリタルトキハ抹消ノ事由及抹消ノ年月日ヲ登記スヘシ

第二十四條第四項ノ規定ハ國債證券信託表示簿ニ付之ヲ準用ス

第三十八條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ信託原簿ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條及第四十六條中「甲種」ヲ削ル

附 則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●信託表示簿及日附アル印章調製方ノ件(大正十一年)

司法省令第四十五號) 不動産登記法施行細則中改正(同第四十六號) 船舶登記取扱手續中改正(同第四十七號)

●鑛業登記施行細則中改正(大正十一年農商務省令第二十六號)

六號) 砂鑛業ノ登録ニ關スル細則中改正(同第二十七號) 漁業登録令施行細則中改正(同第二十八號) 特許登録令施行細則中改正(同第二十九號) 特許法施行規則中改正(同第三十號) 實用新案法施行規則中改正(同第三十一號) 意匠施行規則中改正(同第三十二號) 商標法施行規則中改正(同第三十三號) 著作權ニ關スル登録手續中改正(大正十一年內務省令第一號)

以上略ス

●信託業法施行細則ノ最高利益保證歩合(大正十一年)

十二月一日大藏省告示第五百七十七號)

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ

第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトスルトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒ之ヲ發行スヘシ

第三條 本法ニ依ル信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 動産質
- 二 證書アル債權質
- 三 不動産抵當
- 四 船舶抵當
- 五 鐵道抵當
- 六 工場抵當
- 七 鑛業抵當
- 八 軌道抵當
- 九 輕便鐵道抵當
- 十 運河抵當

第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依ル場合ヲ除ク外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除ク外他ノ事業ヲ兼ムルコトヲ得ス

但シ銀行事業ヲ兼營セサル株式会社ニ在リテハ信託業法ヲ營ムコト

信託業法施行細則第二十一條ノ規定ニ依リ信託業法第九條ノ補足契約ノ最高利益歩合ヲ年五分五厘ト定メ信託業法施行細則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●信託業取扱方ノ件(大正十二年二月七日大藏省訓令第一號)

北海道廳、府縣宛)

一新ニ會社ヲ設立シテ信託業ヲ營ムコトノ免許ヲ受ケムトスル者アルトキハ豫メ詳細調査ノ上新設ノ要否及其ノ計劃ノ適否ニ關スル意見ヲ具シテ當省ヘ稟申シ之ニ對シ當省ヨリ免許ノ證議アルヘキ旨ノ通達ヲ受ケタルモノニ付會社ノ設立及免許申請ノ手續ヲ運ハシムルコトニ取計フヘシ

二信託業法又ハ同法施行細則ノ規定ニ依ル免許申請書又ハ認可申請書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シテ進達スヘシ

三業務ノ種類又ハ方法ノ變更、業務ノ停止、取締役又ハ監査役ノ改任ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲シ又ハ營業ノ免許ヲ取消スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シテ上申スヘシ

●擔保附社債信託法(明治三十八年三月十三日)

法律第五十二號) 信託業取扱方ノ件 擔保附社債信託法

トヲ得

第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス

第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セスト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止又ハ業務執行方法ノ變更ヲ命シ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ノ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第十四條 信託會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官

二八

廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第十五條 商法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、第二百二十八條第二項、又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

商法第二百二十八條第二項ニ依ル請求ハ委託會社又ハ社債權者集會ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス

第十七條 外國ニ於テテ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セサルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ商會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得

第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定メタルトキハ遲滞ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス

第二章 信託證書

第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リテ締結スヘシ

第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ

- 一 委託會社及受託會社ノ商號
- 二 社債ノ總額
- 三 各社債ノ金額
- 四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
- 五 社債ノ利率
- 六 社債償還ノ方法及期限
- 七 利息支拂ノ方法及期限
- 八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其ノ旨ノ表示
- 九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
- 十 第三十二條ニ依ル社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分

擔保附社債信託法

十一 委託及受託ノ表示

十二 證書作成ノ年月日

各社債ノ金額ハ均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス

第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ

前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ謄本ヲ各支店ニ備置クヘシ

第二十一條 信託證書ノ原本又ハ謄本ハ委託會社ノ株主社債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第三章 社債募集

第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケル事項
- 二 物上擔保附社債ナルコト
- 三 信託證書ノ表示
- 四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十九條第一

二九

項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示

- 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額
 - 六 會社ノ資本及拂込ミタル株金ノ總額
 - 七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額
 - 八 信託證書若ハ其ノ謄本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所
- 前項ノ公告ハ信託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ
- 第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ信託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ公告ニハ信託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ

第二十五條 信託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及ヒ前條ニ定メタル公債ヲ爲スコトヲ要セス

第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ信託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

信託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十七條 信託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡サムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

信託會社ハ社債ヲ讓受ケムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ謄本ヲ閱覽セシムヘシ

第二十八條 委託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ從ヒ第三者ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ニ依リ社債總額ノ引受ハ之ヲ商行爲トス

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ヲ

分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ受託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 第二十五條第二項、第二十七條第一項第二項及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三者カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第三十二條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ

第三十三條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ

擔保附社債信託法

- 一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
- 二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
- 三 第二十三條ニ依リ委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實
- 四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルトキハ其ノ事實及引受人ノ氏名又ハ商號

第四章 債 券

第三十五條 信託證書ニ依ル債券ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項
- 二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
- 三 債券ノ番號
- 四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ受託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルトキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依ル株券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

前項ノ證明ハ各債券ニ記載シテ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十七條 信託證書ニ依ル債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ商法第二百六條ニ依ル記載ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲シ商法第二百七條ニ依ル請求ハ受託會社ニ對シテ之ヲ爲ス

第五章 社債原簿

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルトキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第十九條第一項第一號、第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項

二 第三十四條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

第四十一條 委託會社ハ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ受託會社ニ

交付スヘシ

前項ノ謄本ハ委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ

第四十二條 受託會社ハ前條ノ謄本ヲ其ノ本店ニ備置キ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ

第四十三條 社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ都度委託會社ハ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ受託會社ニ通知スヘシ

受託會社ハ前項ノ書面ヲ受ケタルトキハ之ヲ社債原簿ノ謄本ニ添附シテ保存スヘシ

第四十四條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルトキハ社債原簿ハ受託會社ニ於テ之ヲ作成シ其ノ本店ニ備置クヘシ

商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十一條第二項、第四十二條、第四十三條及商法第七十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ

其ノ謄本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ

第四十一條第二項及第四十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第六章 社債權者集會

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニテモ社債權者集會ヲ召集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル者カ其ノ請求アリタル後二週間内ニ集會召集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ請求ヲ爲シタル者ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得

擔保附社債信託法

第五十條 第十五條第二項、第八十九條、第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

前項ノ召集ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社本店ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第九十四條又ハ第九十九條ニ定メタル集會ハ委託會社モ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十一條 商法第五十六條ノ規定ハ社債權者集會ノ召集ニ之ヲ適用ス

第五十二條 社債權者集會ノ決議ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外行使セラレタル議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第六十四條、第六十七條第一項、第七十五條、第八十五條、第八十六條及第九十七條第一項ニ記載シタル事項ノ決議ハ記名債券ヲ有スル者及第二項ノ規定ニ依リ債券ヲ供託シタル者ノ半數以上ニシテ社債總額ノ半數以上ニ當ル社債權者カ決議權ヲ行使シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス商法第六十一條第二項乃至第四項ノ規定ハ社債權者集會ノ決議ニ之ヲ適用ス

集會ニ出席セサル社債權者ハ信託契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク

ノ外書面ヲ以テ決議權ヲ行フコトヲ得

各社債權者ハ社債ノ最低金額毎ニ一箇ノ議決權ヲ有ス但シ社債ノ最低金額ノ十一倍以上ヲ有スル社債權者ノ議決權ハ信託契約ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第五十三條 第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ其ノ代表者ハ社債權者集會ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十四條 受託會社ノ代表者ハ社債權者集會カ第八十九條第二項ニ規定シタル事項ニ付招集セラレタル場合ヲ除クノ外之ニ出席シテ發言シ又ハ書面ヲ以テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ヲ招集スル者ハ前二條ニ掲ケタル者又ハ其ノ代表者ニ招集ノ通知ヲ發スヘシ

商法第五百十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第五十六條 社債權者集會又ハ之ヲ招集シタル者ニ於テ必要ト認ムルトキハ委託會社ニ通知シテ其ノ代表者ノ出席ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會招集ノ手續又ハ其ノ議決ノ方法ヲ本法又ハ信託契約ノ條款ニ違反スルトキハ委託會社、受託會社又ハ各社

質力受託會社ニ於テ執行スルコトヲ許ササルトキハ集會ニ於テ之ヲ執行スヘキ者ヲ定ム

第六十四條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者集會ニ於テ一人又ハ數人ノ代表者ヲ選任シ其ノ決議スヘキ事項ノ決定ヲ之ニ委任スルコトヲ得

代表者ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者又ハ社債總額ノ千分ノ一以上ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス

代表者數人アル場合ニ於テ集會ニ於テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ代表者ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六十五條 代表者ハ第六十三條但書ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六十六條 代表者就任シタルトキハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社、受託會社及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第六十七條 社債權者集會ハ何時ニテモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ集會ハ其ノ公告ヲ爲シ委託會社及第二十九條

擔保附社債信託法

債權者ハ其ノ決議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

社債權者カ第一項ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ債券ヲ供託シ且集會ヲ爲シタル者ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スヘシ

第五十八條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第五十九條 社債權者集會ヲ招集シタル者ハ決議錄ヲ作成スヘシ

第六十條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議錄ノ原本又ハ謄本ヲ本店及支店ニ備置クヘシ

受託會社ハ委託會社又ハ社債權者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ前項ノ決議錄ヲ閱覽セシムヘシ

第六十一條 受託會社以外ノ者カ決議錄ヲ作成シタルトキハ自ラ其ノ原本ヲ保存シ其ノ謄本ヲ受託會社ニ交付スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ謄本ニ之ヲ準用ス

第六十二條 社債權者集會ノ費用ハ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ於テ招集シタル場合ヲ除クノ外集會ヲ招集シタル者ニ於テ之ヲ負擔ス

第六十三條 社債權者集會ノ決議ハ受託會社之ヲ執行ス但シ其ノ性

第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第七章 信託契約ノ效力

第六十八條 受託會社ハ公平且誠實ニ信託事務ヲ處理スヘシ

第六十九條 受託會社ハ委託會社及社債權者ニ對シテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ信託事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第七十條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ信託證書ニ記載シタル社債ノ爲ニ受託會社ニ歸屬ス

受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ擔保權ヲ保存シ且實行スルノ義務ヲ負フ

第七十一條 社債權者ハ其ノ債權額ニ應シ平等ニ擔保ノ利益ヲ享受ス

第七十二條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ社債成立以前ニ於テモ其ノ效力ヲ生ス

第七十三條 民法第三百四十八條、第三百七十五條及商法第二百七十七條ノ規定ハ信託契約ニ依ル擔保權ニ之ヲ適用セス

第七十四條 受託會社ハ委託會社トノ契約ヲ以テ擔保ヲ追加スルコトヲ得

約ヲ以テ擔保ヲ變更スルコトヲ得

第七十六條 前二條ノ契約ハ信託契約ト同一ノ效力ヲ有ス

第七十七條 第七十四條及第七十五條ノ契約ハ委託會社及受託會社ノ代表者ノ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ委託會社及受託會社運滞ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ前項ノ契約證書ニハ第二十條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債權者ノ爲ニノミ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其償還ヲ遲滞シ二箇月ヲ經過シタルトキハ受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ催告スルコトヲ得

委託會社カ前項ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失フ

第一項ノ催告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託

會社ハ運滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨濟セラレス又ハ委託會社カ社債ノ辨濟ヲ完了セスシテ解散シタルトキハ受託會社ハ運滞ナク社債權者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

民法第三百五十四條ノ規定ハ信託契約ニ依ル動産質ニ之ヲ適用セ

第八十三條 受託會社ハ總社債權者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依ル競賣ノ申立若ハ委託ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ債權者ニ對スル異議ハ受託會社ニ對シテ之ヲ主張スルコトヲ得

第八十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債權者ノ爲ニ債權ノ辨濟ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第八十五條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂

ヲ猶豫シ不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 受託會社ハ社債權者集會ノ決議ニ依リ總社債權者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第八十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ運滞ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十八條 受託會社カ社債權者ノ爲ニ辨濟ヲ得タル金額ハ運滞ナク債權額ニ應ジテ各社債權者ニ交付スヘシ

受託會社カ前項ノ金額ヲ自己ノ爲ニ費消シタルトキハ民法第六百四十七條ノ規定ヲ準用ス

社債權者ヲ確知スルコト能ハサルトキ又ハ社債權者カ受領ヲ拒ミ若ハ受領スルコト能ハサルトキハ受託會社ハ其社債權者ノ爲ニ前項ノ金額ヲ供託スヘシ

受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

擔保附社債信託法

第八十九條 受託會社カ總社債權者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

社債權者ト受託會社トノ利益相反スル場合ニ於テ總社債權者ノ爲ニ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス必要アルトキ亦前項ニ同シ

第九十條 本法ニ依リ總社債權者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債權者ヲ表示スルコトヲ要セス

第九十一條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ準用ス

第九十二條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ヲ償還シ及過失ナクシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ關シ之ヲ準用ス

第九十三條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニモ其ノ效力ヲ有ス
受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債權者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第九十四條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受託會社カ供託物ノ上質權ヲ設定シタルモノト看做ス
前項ノ質權ハ信託契約ニ依ル物上擔保ト看做ス

第九十五條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債權者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得
無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券受託會社ニ供託スルニ非サレハ前項ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル質權ニ之ヲ準用セス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

官廳ノ命令書ヲ交付スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス
第九十七條 信託事務ノ承繼ハ第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社、前受託會社及新受託會社、第九十七條ニ依ル場合ニ於テハ委託會社及新受託會社連帶ナク各自之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債權者及第九十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第九十七條 第九十七條ニ依リ定メラレ又ハ第九十七條ニ依リ選任セラレタル新受託會社ハ前受託會社ノ締結シタル條款ニ從ヒ信託事務ヲ處理スヘシ
社債權者又ハ委託會社ノ爲ニ前受託會社ニ歸屬シタル權利義務ハ前受託會社ヲ辭任、解任、免許ノ取消又ハ解散ノ時ニ週リテ新受託會社ニ移轉ス但シ前受託會社ノ契約違反又ハ不法行爲ニ因リテ生シタル責任ハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 前受託會社ノ不法處分ニ因リ質物ノ占有ヲ得タル者カ惡意ナリシトキハ新受託會社カ其ノ者ノ爲ニ占有ヲ奪ハレタルモノト看做ス
第九十九條 前受託會社ノ取締役、之ヲ代表スル社員、清算人又ハ破産管財人ハ連帶ナク其ノ委託會社又ハ社債權者ノ爲ニ保管スル物

擔保附社債信託法

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債權者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得
信託事務ヲ承繼スヘキ會社カ外國會社ナルトキハ第十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ辭任スルコトヲ得
第九十九條 信託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債權者集會ノ申請ニ因リ信託會社ヲ辭任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ信託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ信託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ
第一百一條 第九十七條ニ依ル信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

前項ノ契約ヲ締結シタルトキハ各會社ハ連帶ナク書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ前條ニ依ル承繼ハ新受託會社ニ對スル主務官廳ニ關スル書類ヲ新受託會社ニ移付シ其ノ他信託事務ヲ新受託會社ニ引繼ケ爲必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘシ
前項ニ掲ケタル引繼ヲ完了シタルトキハ各會社ハ共同シテ書面ヲ以テ之ヲ主務官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ届書ニハ移付シタル物ノ目錄ヲ添付スヘシ

第一百六條 承繼ニ關スル事務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
第一百六條第二項ノ規定ハ前項ノ監督ニ之ヲ準用ス
第一百七條 受託會社カ信託事務ヲ終了シタルトキハ總計算書ヲ作成シテ之ヲ公告スヘシ
第九章 罰則
第一百八條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
第一百九條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ

- 四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ
- 八 第七十條第二項ニ依ル擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ
- 九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 十 第九十五條第一項ニ依ル検査ヲ妨ケタルトキ
- 十一 第九十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
- 十二 社債權者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ
- 十三 社債權者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

- 國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
- 一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
- 二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 三 本法ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシトキ
- 四 本法ニ依リ備置クヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 第百十一條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本章ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス
- 附 則
- 第百十二條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得
- 第百十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非訟事件手續法第百七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外主務官廳ノ免許書又ハ其ノ副署アル謄本ヲ添附スヘシ

第百十條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ施行スル社員、取締役、清算人、破算管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外

512
141

終